

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 22 号 (平成 24 年 9 月発行)

さる 7 月 23 日 (月) に平成 24 年第 2 回定例会が開会され、同月 31 日 (火) に一般質問が行われ、議案 1 件が可決され閉会しました。

今回は、田中智也議員 (三重県議会選出)、森康哲議員 (四日市市議会選出) の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

田中智也 議員



森康哲 議員



○ **四日市港長期構想策定後の情勢の変化について、例えば完成自動車では北米等へ輸出する取扱量が減ってきているなど、長期構想を策定した時点では予想できなかった部分が今押し寄せてきているが、管理組合としてこの辺りをどう捉え、対応していくのかお伺いしたい。**

◎ 四日市港長期構想では、概ね 20 年後の四日市港の将来像が描かれていますが、その後円高の進行等、経済情勢の変化があり、四日市港においても、完成自動車の輸出台数が減少するなど貨物の需給動向に変化が生じています。

長期構想の理念は今後も追求していく必要がありますが、一方でそのアクションプランである四日市港戦略計画を定期的に見直すほか、企業との情報交換を密にしその動向に的確に対応していく等、情勢の変化にも柔軟に対応していきます。

このように四日市港としては、中長期的な視点では長期構想という理念を守りながらも、短期的な視点では戦略計画等で企業の方のニーズに対応していきたいと考えています。

○ **四日市港における公園・緑地の有効活用について、多額の整備費用を投入してきた経緯と今の利用状況をお尋ねしたい。また今現在、公園緑地の維持管理はどのように行っているのか、また今後はどのように進めていくのか具体的にお尋ねしたい。**

◎ 四日市港では、昭和 48 年に創設された港湾環境整備事業を活用して、緑地の整備に取り組んできました。昭和 59 年度に市街地との関係を良好に保つために整備した浜園緑地、平成 10 年度に整備した霞港公園とシドニー港公園、平成 18 年度に県民・市民が水辺に親しむことができるように整備した富双緑地を合わせて 33 億 8 千万円を使っています。利用状況は、主として、小学校等の遠足・社会見学、花火大会、地元の方々のウォーキング等に利用され、把握できる利用者は年間 3 万 7 千人となっています。維持管理費は、年間 6 千万円を超えていますので、低コストで、なおかつ安心してご利用いただけるよう努めてまいります。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。